



FC東京と狛江市民との  
絆を強くしていきたい。

石川直宏氏

(FC東京クラブコミュニケーター)

写真提供：FC東京



本年2月、狛江市はFC東京と  
包括連携協定を締結しました。

今回の「こまえをつなげるインタビュー」は、JリーグチームFC東京クラブコミュニケーターとしての役割を担う石川直宏さん(元サッカー日本代表)の登場です。狛江市とFC東京さんは本年2月に包括連携協定を締結していただきました。果たして、FC東京さんが行う地域連携、社会連携はどういう考え方なのか? 狛江市民や狛江市と、どのような関係性を築いていただけるのか? 非常に興味深いお話をお聞きすることができました。(聞き手 三宅まこと)

**狛江市との関係性を深め、地域のニーズにお応えすることで、FC東京として貢献できる幅を広げていきたいと思えます。**  
(お話は、石川直宏さん)

**クラブコミュニケーターという役割を教えてください。**

選手を引退して、今まで応援してくださった方々にどうにかと感謝を伝えていけるのかと考えました。

ファンやサポーターの方に愛されるチームにしていくためには、スタッフ、選手、クラブに関わる全ての人々がしっかりと密接な関係性を持つことが重要です。色々な部署の人たちとのコミュニケーションだ



写真は、FC東京の試合前後に配信されるクラブ公式YouTubeチャンネル(石川さんが解説)のスタジオにて。スピードスターとして活躍された現役時代のプレイスタイルとは異なり、現在の役割では「着実に一步一步積み重ねて、まわりとのコミュニケーションやバランスを気にするようになりました」というお話でした。

**行政とクラブとは、どういう関係性になるのでしょうか。**

現役時代からホームタウンの自治体訪問はありました。引退後は調布市との活動でいうとパラスポーツですね。パラリンピックに向けて市民の方々に伝えていきたいという思いがありました。

障がい者のサッカーに興味があり、ブラインドサッカー(視覚障がい者の行う5人制サッカー)の協会や選手たちとは、私の現役時代から関わりがありました。なぜかというところ、コミュニケーションの質が問われるんです。

例えば真正面において「右に行ってくれ」と言っても、相手からしたら左だったりとかそうしたコミュニケーションひとつで、プレイの動きや結果が変わってくる。そういうことがブラインドサッカーでは求められます。健常者でもアイマスクをすれば一緒なので、みんなで体験できます。障がい者サッカーの枠組み

をクラブと行政と一緒に取り組んでいければ、共生社会を実現していくことができる、そんなイメージでしょうか。

**FC東京の考える地域連携、社会連携を教えてください。**

自分やクラブが良いと思っ  
ていることについてどんどん  
広げていきたいですが、地域  
には地域なりの課題があると  
思います。それをしっかりと  
ヒアリングしたうえで、地域  
のニーズにあわせた取り組み  
が必要になってきます。狛江  
市さんが今求めていること、  
課題としてあがっていること  
を細かい部分まで教えていた  
だけるとありがたいですね。



今、Jリーグでは「Jリー  
グを使おう!」という掛け声  
で地域連携、社会連携を行っ  
ています。行政の皆さんから  
クラブに「こういうことをし  
てくれたらありがたい」とい  
うようにお互いフラットな目  
線でお話しいただき、地域の  
課題を知ることができれば、  
クラブとしても「こういうコ  
ンテンツがありますよ」とい  
う風につながっていくのだと  
思います。地域連携や社会連

携の意味は、地域との関係性を深めることでさまざまな地域ニーズに答えていく、FC東京として貢献できる幅も広がっていく、幅が広がれば、視点が変わっていく、自分たちがこうしていきたいという事がどんどん増えていく。そんな成功循環モデルを実現できることではないでしょうか。

そうした関係性を築いていければ、次にアクションを起こすための行動とか、一緒にやることになって、その質が変わり、更に絆が強まって、また新たなアクションを起こしていくような絵が見えてくると思えます(了)

石川直宏さんから狛江市民へメッセージをいただきました! 下記、QRコードからご覧下さい(約1分半)

